

## 「ひざ痛教室」 - 第5回 - 変形性ひざ関節症③

副院長の三上です。

第5回の「ひざ痛教室」です。よろしくお願いいたします。

今回も含め、“変形性ひざ関節症”について、しばらく連載させていただきます。

“変形性ひざ関節症”の主な症状については、動かした時に痛い動作時痛、正常に曲げ伸ばしができなくなる可動域制限、いわゆるひざに水がたまって腫れる関節腫脹などです。

### どんな症状があるのか？

#### 動作時痛

ひざを動かしたときに  
痛みが起こる



#### 可動域制限

ひざの曲げ  
伸ばしが  
つらくなる



#### 関節腫脹

ひざが腫れる  
(水がたまる)



外来での診察ですが、どこがいつから痛いかなどの問診を行い、水がたまっていないか？曲げ伸ばしの角度など視診、触診を行い、さらにレントゲン検査を行います。

## 病院（外来）での診察は？

問診



視診、触診



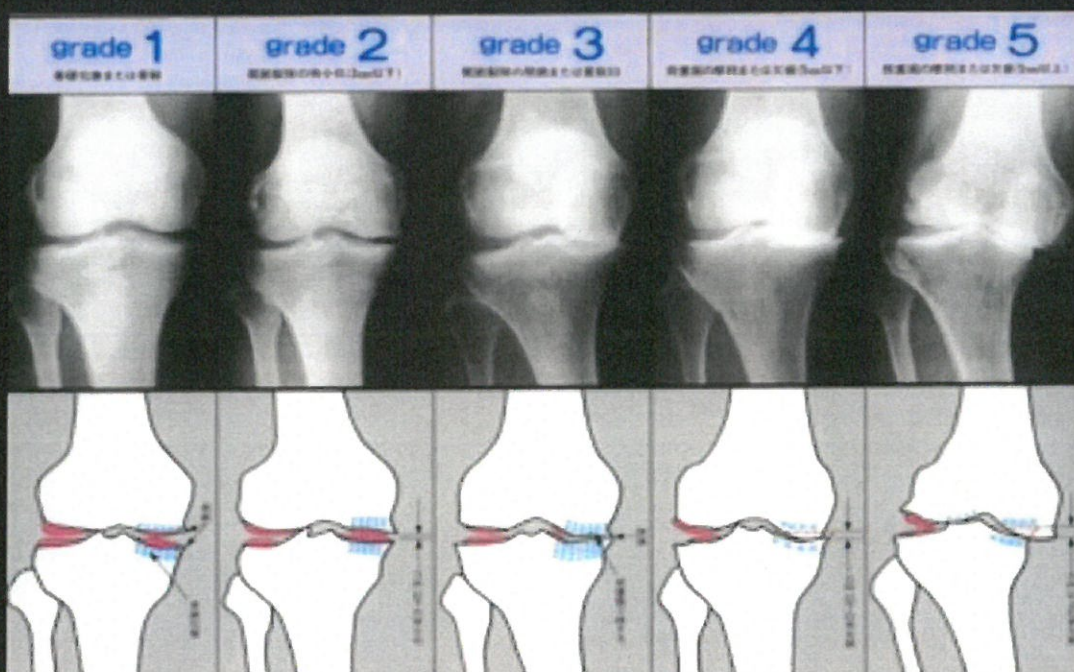
レントゲン検査



変形の進行具合（軟骨のすり減り具合）はレントゲンで判断します。

## 変形性ひざ関節症では レントゲンが重要

変形の進行具合はレントゲンで判断する



グレード（病期）は、1～5 期に分類され、大まかに 1、2 期を初期、3 期を中期、4、5 期を末期（または進行期）と言います。初期ですと軟骨のすり減りはわずかで、関節の隙間はあるのですが、すり減りが進行していくと徐々に隙間がなくなり、中期では隙間が半分程度、末期になると隙間がなくなり、骨と骨同士が直接ぶつかり、ひざの形も大きく変形してしまいます。

変形の進行具合と出現する症状は大体は一致します。初期の変形ですと、

立ち座り、歩き始めや朝寝起きの数歩が痛む、違和感がある、階段で痛むなどの症状が出ます。中期になると、歩くと痛み、長く歩けない、速く歩けない、

熱をもったり、張った感じがする、深く曲がらず正座ができないなどの症状が出ます。末期になると、明らかにO脚変形が進み、曲げ伸ばしも悪くなり、じっとしていても痛い、夜中に痛い、歩くときにひざが横にスッとずれる（ラテラルスラスト）、階段昇降ができない、膝を棒のようにして伸ばしてしか歩けないなどの症状が出ます。

まとめです。“変形性ひざ関節症”の進行具合は、レントゲンで評価します。グレード1、2期を初期、3期を中期、4、5期を末期（進行期）と分類し、進行具合によって症状が変わっていきます。もし、これを読んだ方で、思い当たるような症状があれば、近くの整形外科を受診し、レントゲンで自分のひざの状態の評価を受け、しかるべき治療を受けることをおすすめ致します。